

2012年度成蹊大学法科大学院入学試験 刑法

問題1 (配点50)

甲の罪責に関する以下の記述について、正しい場合には、「正」と、誤っている場合には、「誤」と、解答用紙の冒頭に記載した上、その理由を簡潔に述べなさい（なお、「誤」と解答した場合で他の刑法上の犯罪が成立する場合には、その罪名も理由中で明らかにすること）。

- (1) 甲は、A女が経営するスナックに入店したところ、他に客がいなかったことから、A女を強姦しようとして、A女を殴るなどの暴行を加えたところ、A女はその場に倒れて動かなくなった。その時点で、甲は、財物奪取の意思を生じ、その場に倒れて動かなくなったA女が身につけていた腕時計と指輪を取り上げ、これを甲の着用するズボンのポケットに入れて逃走した。もっとも、A女は、恐怖のあまり気絶した振りをしていただけで、意識は失っていなかった。甲には、強姦未遂罪のほか、強盗既遂罪が成立する。
- (2) 未成年被後見人Aの祖母であり、家庭裁判所から未成年後見人に選任された甲が、後見の事務として預かり保管中のAの貯金を引き出して費消した。甲には、業務上横領罪が成立するが、刑法255条、刑法244条1項により、甲は、その刑が免除される。

問題2 (配点50)

以下の設例について、甲及び乙の罪責を論じなさい。

甲は、乙の運転する普通乗用自動車に乗車して交差点に差しかかり、信号待ちのため一時停止した際、同所で信号待ちをしていたA（当時64歳）が、自転車の前籠にバック1個を入れているのを認めて、これを窃取しようとして、乙に対し、「ここで待っていてくれ。」と告げて下車し、Aの自転車で走って近づき、その前籠からバック1個を窃取した。甲は、その際、これに気付いたAから左手をつかまれるや、その取還を防ぎ、逮捕を免れるため、同人の腕を引っ張って付近路上に転倒させた。

乙は、甲がいきなり下車して、バック1個の窃取行為を行ったことに驚きながらも、甲の逃走を助けるため、甲に対し、「早く乗れ。」と告げ、甲が乗車するや否や、同自動車を発進させて逃走しようとした。すると、Aが同自動車の前に立ちはだかかったところ、乙は、甲が「車を出せ。」と怒鳴るのを聞いて、Aを無視して同自動車を発進させた結果、Aを同自動車に衝突させて転倒させた。これらの暴行により、Aは3週間の加療を要する傷害を負ったが、この傷害が、いずれの暴行から生じたものかは明らかとならなかった。